

カナダの金融市場動向 Weekly Report

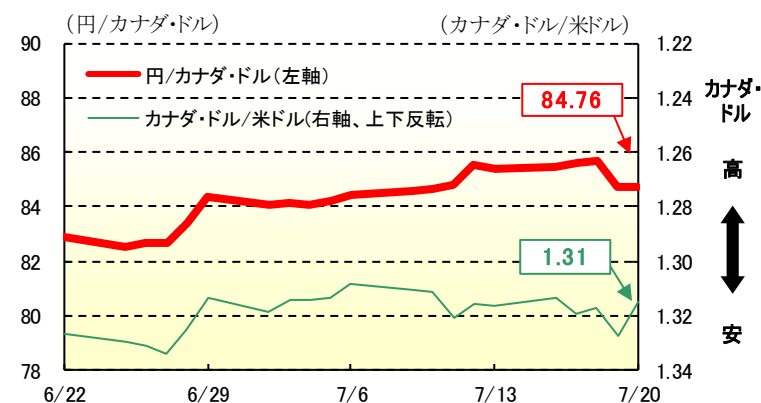
【2018年7月14日～2018年7月20日の推移】

【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドルは対円で下落しました。また、カナダ5年国債利回りは小幅に上昇しました。

原油価格の持ち直しでカナダ・ドルが上昇する局面もありましたが、トランプ米大統領の米ドル高けん制発言がドル円の下落要因となりました。国債金利は、トランプ大統領がFRB(米国連邦準備制度理事会)の利上げに対して苦言を呈したことで、カナダ中央銀行の利上げの時期も後退するとの思惑が働き、低下した局面もありましたが、20日(現地)に発表された小売売上高やCPI(消費者物価指数)がともに市場予想を上回った事で利上げ期待が高まり、上昇しました。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2018年6月22日～2018年7月20日)



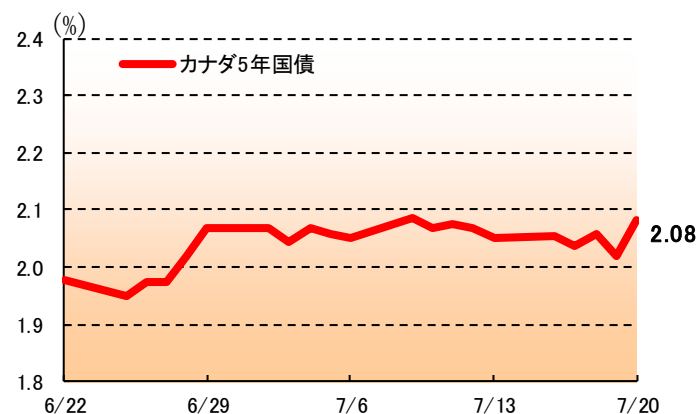
※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

【2】今週の見通し

今週は、カナダ国内では注目される経済指標の発表はありません。貿易摩擦について、トランプ大統領は「中国製品5000億ドル相当に関税賦課実施を留意」や「中国とEUが通貨操作をしている」などと述べるなど、攻撃を緩めていません。週末に行われたG20財務相・中央銀行総裁会議においても、米国とそれ以外の国との溝が埋まらず、共同声明では、貿易摩擦などで世界経済に「下方リスクが増大」と明記されました。カナダは米国との経済的結びつきが強いことから、貿易摩擦の強まりがカナダの金融市場に与える影響は大きいと考えられ、引き続き注視する必要があります。

【カナダ 金利推移】 (2018年6月22日～2018年7月20日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>